

シンポジウム I：臨床検査技師教育における修学支援について：多様な学生への支援

司会のことば

永瀬 澄香*

熊本保健科学大学で開催された第 14 回日本臨床検査学教育学会シンポジウムでは、「臨床検査技師教育における修学支援について：多様な学生への支援」と題して、3 人のシンポジストにご講演いただいた。

現在、大学教育において修学支援の体制をどのように考えていくべきなのか、大変重要な課題となっている。臨床検査技師教育を行う各養成校には、毎年、夢と希望を抱いて多くの学生が入学している。学生の個性を活かし各機関が多様な学生への支援を行うには、施設環境、教育への配慮、温かいコミュニケーション、明確なシラバスの提示などさまざまな対応を参考にして、修学支援を行うことが大切である。

文部科学省より平成 27 年 12 月には、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針について」通知が各大学等に出された。平成 28 年 4 月からいわゆる「障害者差別解消法」の法律が施行され、各教育機関では、様々な対応策や支援の在り方を考えるようになっている今日である。医療職である我々臨床検査技師教育においても修学支援について参考となる大学の対応を共通の認識として学ぶ機会が望まれる。教育を行う立場でちょうど問題意識をもって対応すべき昨今、本学会において開催されたシンポジウムは、限られた時間の中で活発に質疑応答が行われ、大変有意義な内容であったと言える。

今回シンポジストとして、教育現場の視点から熊本保健科学大学の嶋田かをる先生、臨床現場の視点から九州保健福祉大学の山本成郎先生、元当事者からの視点として(株)臨床宮崎勤務の臨床検査技師原口彩央里さんにご登壇いただいた。このたび司会を務めさせていただき、3 名の先生方の熱い想いのこもったご講演内容に加えて、最後の討論会においても会場から活発なご発言があり有難く思った次第である。

教育現場からの視点では、統計からみる障害のある学生の修学支援状況、合理的配慮の提供、PC ノートテイクによる修学支援の実践など具体策が報告された。教員の立場から温かく学生を支援し続け、基本情報の明確化を試み支援者としての姿勢や大切なスキルを身につける重要性をご講演くださった。臨床現場からの視点においては、実際に実習現場で気配りを必要とする学生に対する事例の報告があった。大学と臨床現場技師との情報の共有や配慮を行い、修学支援が必要と思われる多様な学生に対する教育実習現場での理解ある細やかな対応が紹介された。お二人のご講演を拝聴し、教育に携わった先生方の学生に寄り添う優しい教育者としての姿勢や考え方に深く感銘を覚えた。さらに、学生の可能性を引き出し伸びる素養を温かく見守る充実した大学教育支援システムの構築および大学教職員一人ひとりの理解と情熱が必要であると感じた。教員は、多様な学生に

* 川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科、日本臨床検査学教育協議会副理事長 nagase@jc.kawasaki-m.ac.jp

対応するため、学生の真意を理解し未来を見据えて学生が何を求めているのかよく傾聴することが大切である。臨床実習においては、技師の方々とよくコミュニケーションを図り、連携、協力体制で相調和して支援していくことが望ましいと考える。

最後に元当事者の視点として、先天性両耳難聴を持つ卒業生が、臨床検査技師として医療の一翼を担っていききたいという強い信念も持ち、日々努力しながら一生懸命勉学に励んできた体験を話された。発表時にはパソコンノートテイカーによる情報保障を行い、会話内容はサブスクリーンで大画面に映写された。当事者に寄り添った大学の支援提供により、難しい専門用語の理解を克服でき、無事に養成課程を修了し、臨床検査技師国家資格を取得した喜びを語った。ご家族の温かい愛情に守られ、支援者すべての方への感謝の思いが述べられた。明るく熱心に臨床検査の勉学に邁進し、技師になってさらに目標をもって努力している姿を拝見し、大変胸を打つ発表であった。若者にはそれぞれ素晴らしい能力があると思う。学生の内在する可能性を引き出し、より一層輝くことができるように、教育者である私たちは情熱と誠意をもって学生に寄り添えば、まだまだ臨床検査技師教育を高めていける可能性があるように思えた。多様な学生に対応できる教育環境づくりと心の豊かさを持ちながら良き医療人を育てる使命の大切さを改めて実感した。

シンポジストのご講演は、どれも心に響く内容であり、会場の皆様に深い感動を与えるものであったと信じている。また、本シンポジウムには、障害学生支援のスペシャリストである2名の先生方(京都大学 学生総合支援センター:船越高樹先生、富山大学 学生支援センター:西村優紀美先生)がご参加くださり、障害者支援の在り方についてご発言いただけたことは有難いことであった。先生方との出会いをきっかけに私も遠隔会議システム ZOOM による東大プラ {PHED} の研修事業に時折参加するようになり、学ぶ機会が増えうれしく思う。日本の未来を担う若者のために、さらに多くの大学教職員と連携して専門的学びの輪を拡大し、学生の心に寄り添い多様な修学支援の活動が益々全国に広がることを願っている。

本教育協議会の社会における存在意義は大きく、今後も様々な視点で各養成校の先生方とともに臨床検査技師教育の重要な課題を学びあい、互いに連携を深めていくことが大切であると言えよう。日本の医療を支え臨床検査を志す学生のために、素晴らしい臨床検査技師の育成を目指して、各養成校がともに発展していくことを心より祈っている。本シンポジウムを企画いただいた大会長古関先生をはじめ、ご講演くださった3人のシンポジストの先生方、ご参加くださった皆様に深謝申し上げたい。